



最新技術に触れる

土木研と建コン九州  
が土研新技術展示会

土木研究所（西川和廣理事  
長）と建設コンサルタツソ協  
会九州支部は25日、福岡市の

福岡県中小企業振興センター  
で「土研新技術ショーケース  
2018 in 福岡」を開いた  
。写真。産学官の技術者ら約  
400人が参加した。  
冒頭、あいさつに立った西  
川理事長は、土木研究所の役  
割や活動内容を説明した上で  
「土研新技術ショーケース  
は、土木開発技術の理解と活  
用促進を目的に、02年度から  
全国延べ59カ所で開いてい  
る。講演会と展示・技術で紹  
介する最新技術を学び、活用  
してほしい」と趣旨を説明し  
た。来賓の増田博行九州地方  
整備局長は、「ことは生産  
性革命プロジェクトの深化の  
年と位置付けている。土木技

術の開発は非常に重要なもの  
であり、技術をどう使うか考  
えてほしい。整備局は、i-  
Constructionの  
ICT施工を積極的に進め、  
民間と連携して新技術の活用  
を進めたい」と語った。  
その後、技術開発に携わっ  
た土木研究所の研究者が河  
川、モニタリング、環境対策、  
長寿命化技術に関して11技術  
を紹介した。また、九大大学  
院工学研究院附属アジア防災  
研究センターの三谷泰浩教授  
が「3次元データによる道路  
構造物の維持管理」、九州地  
方整備局の島本卓三九州技術  
事務所長が「新型簡易遠隔操  
縦装置（ロボQS）の開発」を

テーマにそれぞれ講演した。  
会場内には講演した11技術  
を含む43技術のパネルや模型  
などの展示、技術相談コーナ  
ーを設けた。  
紹介技術は次のとおり。  
〈河川技術〉  
▽総合洪水解析システム（IF  
AS）▽ダムへの排砂技術▽護岸背  
面空洞探査・可視化手法。  
〈モニタリング、環境対策技術〉  
▽水中構造物音響画像点検装置  
▽既設アンカー緊張力モニタリ  
ングシステム（AkierMos）▽  
土壌曝露を活用した環境に優しい  
表面浸食防止技術▽振動軽減舗  
装。  
〈長寿命化技術〉  
▽カーボンブラック添加アスフ  
ルト▽コンクリート構造物の補  
修対策施工マニュアル▽トンネル  
の補修技術（NAV工法）▽コン  
クリート橋桁端部に用いる排水装  
置。